

精河と蒙
古王

日中の氣
温九十三
度
大雨漏屋

三日の行程中、托多、卞房(所)間は、梧桐の疎林葦蘆を交え殊に其の北側に多く、其れより以西は沙漠帶、沙丘亂疊して約十二里なる龍王廟(ルンワンミヤオ)に到る。四日の行程は僅に五里餘なる精河(チンホ)に着せり。沿道一般に沙磧地を成し、卞房の西南に沙崗の峙あるも昇降共に頗る緩斜とす。精河は人家約百戸、精河直隸廳衙門、參將衙門あり、歩隊一營馬隊一旗駐屯す。此地に吐爾扈特貝勒一同貝子一あり。

五日永集堡(エシチアプ)を経て行程約十五里、大河沿に宿す。精河、永集堡間は、農家點々耕地多く、目下播種前に方りて、何れも引水しつゝ在り。又永集堡、大河沿間は、梧桐林其の他葦蘆茂生し、往々溜水地を見る。大河沿は人家七十戸、馬隊十餘騎あり。是日暑氣甚しく、日中九十三度に上りしが夕刻小雨西方より來り、爲めに大に涼味を覺ゆ。斯て夜は將に半ならんとする頃、大雨俄に至りて、客舎内水を漏し、再び就眠し得ざりしが翌六日朝來東風強く、一たび雨雲を吹き拂ひしも、尙ほ時々小雨あるに因り、更に一日茲に留れり。

七日行程約七里、五臺(ウイタイ)(又托霍木(トホム)と稱す)に着す。此の間直道約四里に過ぎざるも、一帶に濕地なると、一昨夜の降雨の爲め本道は容易に經過し難きとを思ひ、遙に南山麓